

平成25年4月10日号 (第124回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、
患者の皆様とともに生命と健康を考える医療を実践します。

4月は、何かと異動が多くなる季節です。保険証やご住所等の変更がございましたら、お早めに会計窓口へお知らせください。



今回の阿伎留通信は、「前立腺がん」について
泌尿器科 朝岡医師よりお話をさせていただきます。

「前立腺がんのお話」

前立腺は男性だけにある生殖器官です。その働きは精液の一部になる前立腺液を分泌して、精子の運動や保護に関係しているといわれています。前立腺は栗の实くらいの大きさと形をしていて、膀胱の真下に尿道を取り囲むように位置しています。尿道に接する内側の部分を内腺、被膜近くの外側の部分を外線といたしましたが、最近では外線部分は辺縁域、内線の部分を中心域と移行域に分け、3つの領域として呼ぶことが多くなりました。そして、前立腺がんは辺縁域に好発すると言われていています。

2011年の日本人の年間死亡者数は1,253,066人でした。死亡原因のトップはがん、肉腫などの悪性新生物によるもので、1980年に脳出血、脳梗塞などの脳血管疾患を抜いてから死亡原因の第1位を続けており、2011年では年間357,305人が悪性新生物を原因として亡くなっています。悪性新生物を臓器別に見てみますと前立腺がんは男性死亡者数の第8位で、2011年には10,823人が亡くなっています。前立腺がんは、欧米では男性のがんの中で大変多いがんとして知られています。アメリカ合衆国では、すでに男性がんの中で、罹患数（前立腺がん患者数）では第1位、死亡者数では肺がんに次いで第2位になっています。

日本において罹患数は第6位、死亡者数では第8位ですが、将来的に最も増加するがんの1つと考えられていて、2020年には罹患数の第2位になると予想されています。

日本において前立腺がんが増加している背景をかんがえますと、まず第1に社会の高齢化があげられます。前立腺がんは罹患する人の割合は高齢になるほど増加する特徴があります。従って、高齢化社会になれば前立腺がんの患者さんが増えると考えられます。次に、脂肪の多

い食事など食生活の欧米化が、前立腺がんの罹患率上昇原因とも考えられています。更に、前立腺がんにおける診断法の進歩も、罹患率増加に深く関係しています。1980年代に発見された前立腺がんの腫瘍マーカー「PSA」（前立腺特異抗原）の測定が普及したことで、それまでは診断できなかったがんも早期の段階で発見できるようになり、前立腺がん患者さんの増加につながっています。

前立腺がん罹患する危険因子（リスクファクター）を考えてみますと、いくつか明らかになっています。避けられないことですが、加齢は前立腺がん罹患する確立を増加させると考えていいでしょう。また、欧米型の動物性脂肪の多い食生活も危険因子と考えます。また、遺伝的要因も重要です。親、兄弟のような近親者に前立腺がんの患者さんがいる場合には、前立腺がん罹患する確立は2倍になり、近親者に2人以上の前立腺がん患者がいる場合には罹患率は5～10倍になるといわれています。

前立腺がんの症状はがんの進行によって変わってきます。先に述べたようにがんは大部分が尿道から離れた前立腺の外側の部分（辺縁域）に発生します。このためごく初期のうちには、まったく自覚症状がありません。しかし、病気が進行してがんが増大すると、尿道や膀胱を圧迫するようになり、前立腺肥大症と同じような排尿困難、頻尿、残尿感を自覚するようになります。

また、時に尿や、精液に血が混じるといった症状が見られることがあります。がんがさらに進行しますと転移を起こすこととなりますが、前立腺がんの転移は骨、特に背骨や骨盤の骨に転移を起こすことが多いという特徴があります。このため、骨転移をした場合には腰痛などが出現するようになってきます。

このように前立腺がんは早期のうちには症状に乏しく自覚症状がでた時には、がんが進行している場合が多いため、PSA測定検査が普及するまでは早期発見は困難でした。

あきる野市では平成17年より医師会の協力で、住民健康診断の際に、希望する50歳以上の男性を対象にPSA測定による前立腺がん検診を開始しました。また、地域の開業医の先生方もPSA測定をしていただけるようになってきました。阿伎留医療センターではPSA異常値を示す方々にさらにMRIやエコーなどの検査を行って、必要と判断した方には確定診断のため前立腺生検を施行しています。2012年には87人が生検を受け49の方が前立腺がんと診断されています。49人の前立腺がんの方のうち35人は転移や他臓器に浸潤を認めない、いわゆる早期前立腺がんでした。

欧米では前立腺癌の死亡率は低下傾向にあり、その原因として前立腺癌検診の普及効果が考えられています。50歳以上の男性には前立腺癌検診の受診を是非おすすめいたします。

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)